

国見町の 学校給食

子どもたちに伝える



日本の学校給食は、明治22年に山形県鶴岡町（現鶴岡市）の私立小学校で、家が貧しく弁当を準備できない児童のため、無償で昼食を用意したことが起源とされています。

近年では、偏った栄養摂取や朝食欠食などの食生活の乱れ、肥満・痩身傾向など、子どもたちを取り巻く健康問題は深刻化しています。

子どもたちが食に関する正しい知識と、望ましい食習慣を身に付けることができるよう、学校給食はますます重要な役割を担っていくのではないのでしょうか。

今回の特集では、子どもたちの健康と成長を支える学校給食に関わる人たちの声と、町の取り組みを紹介します。

未来へつなげる町の取り組み

食を学ぶ 食を伝える

食育は、知育・徳育・体育の基礎となり、さまざまな経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実現することができる人間を育てます。



くにみ幼稚園で定期的に行われる「食育教室」



旬の食材に触れる子どもたち



生のサンマも手づかみで観察



五感を使って食材を観察

食育の推進と実践

町では「食を学び、食を伝える」を基本理念に、食を通じた健康づくりの推進や子どもの食育の推進、町の食文化の継承を図るため「国見町食育推進計画」を平成29年に策定しています。

その中で、毎月19日の「食育の日」を「みんなで食べる国見の日」と位置づけています。町産の食材を使用し、家庭や地域で受け継がれてきた家庭料理を作り、家族で食卓を囲むことで、食文化の継承と普及に取り組んでいます。

学校給食費の無償化

令和3年4月から町は、幼稚園・小学校・中学校の給食費を無償化しています。今年度新たに策定した第6次国見町総合計画にある、「未来につながるまちづくり」の一環として子育て世代の経済的負担を軽減し、子育てしやすい環境の実現を目指します。

また、学校給食費無償化を町の魅力として発信し、子育て世代の定住や転出の抑制に取り組めます。